

～主権者教育～

弁護士 田中 勇輝

私は兵庫県弁護士会で法教育委員会という委員会に所属しておりますが、その関係で、また、直接お声がけを頂き、学校等で講師としてお話をさせて頂くことがあります。その活動の中で、最近面白い試みをさせて頂きましたので、ご紹介したいと思います。

2016年から日本でも18歳選挙権が導入され、その年から、どこの高校でも主権者教育が盛んに行われるようになり、私も何度か主権者教育という名目で講義に行かせて頂きました。

その中の一つとして、他事務所の弁護士からお声がけを頂き、つい先日、神戸市内の公立高校の3年生に対し、90分×2回という時間で、模擬選挙というものを行ってきました。

模擬選挙は、ほぼ実際の選挙と変わらぬ内容で国政選挙と市長選挙を行うこととしました。

まず、最初の30分ほどで、現実の選挙の争点として、国政選挙については、雇用、社会保障、消費税、憲法改正、災害対策、原発というテーマについて、どういう問題で議論になっているかを説明します。

そして、実際の主な政党の主張に似せて、架空の政党の候補者のスピーチ案をこちらで用意しておき、それをあらかじめ生徒さんをお願いして、各党の候補者からスピーチをしてもらいます。市長選挙についても、神戸市に似せた架空の市の市長選として、3人の候補者を用意し、外国人誘致、社会保障、若者の雇用等何を重視するかで色分けをしてスピーチをしてもらいました。

そこまでで一日目の授業は終了し、生徒さん達は、一週間後の模擬投票日まで、どの政党、どの候補者に投票するかを考えておきます。

そして、一週間後、その学校では、区の選挙事務所から、本物の投票箱を借りて来て下さり、実際の選挙さながらに、投票を行いました。

そして、速やかに開票をし、その場で、結果発表をして、生徒さん達から、感想や、どういう理由で投票をしたかなどを聞いて回りました。

というのが、実際の授業の流れです。

お声がけを頂いた弁護士の発案での授業でしたが、非常に面白い内容でした。

スピーチも、あらかじめお願いしていたこともあって、ただ読み上げるだけでなく、きちんと人に伝えるように熱弁してくれましたし、投票後のコメントも興味深い回答ばかりでした。私自身は、高校などで授業をさせて頂く際、自分が高校生だった頃を思い出し、かなり実際の選挙の争点などからはレベルを下げてお話をしますが、今の18歳の子は実際に選挙に行

かなければならないのですから、レベルを下げることはおかしかったのかもしれませんが。

今回行った高校の生徒さん達からも、特定の政党の意見に対し、「実現性が薄いと思う」などの厳しい意見が出たり、あるいは、「理由はうまく言えないけど、憲法9条は守りたいし、原発もなくしてほしい」などの純粋な意見が出てきました。

お恥ずかしい話、私自身は、18歳の頃は、正直新聞も読んでいませんでしたし、政治にも興味もありませんでした。高校に行って授業をする際には、ほぼいつもその話をし、だからこそ、今から新聞は読んでおいた方が良く、政治にも是非興味を持って欲しいというお話をしています。

今の選挙では、全体の投票率自体もかなり低いですが、若年層の投票率の低さは相当です。20代の投票率は30%強しかないのに対し、50代以上は60%前後になっています。これでは、政治家が若者受けする施策に目を向けないなどということ、奨学金問題を交えてお話をしています。

今回の模擬投票という授業を通して、生徒さん達は、授業の一環なので、全員投票をしなければなりません、その中で、今まであまり政治に触れて来なかった子達でも、今の社会問題に少しでも考えを向けることになります。

そして、何より、実際に投票をし、その結果を見て、さらに、どういう理由で投票をしたかなど、同級生の意見を聞きます。これはなかなか大人になってしまうと得難い経験だと思います。選挙結果も、実際の選挙結果同様大きく割れました。今まさに同じ環境にいる子ども達でも、社会問題に対する考えが分かれることを知り、それについての他者の理由を知る。

このような経験があれば、実際に選挙があった時に、とりあえず選挙があるし行ってみようかという気持ちになりやすいのではないかと勝手に感想を持っています。

私自身、司法試験受験中ですら、法律の知識を優先してしまい、今更ながらそのことに対する後悔を抱いていたりしますので、その後悔を伝えられる主権者教育には熱い思いがあります。今後も、この主権者教育ブームは続くでしょうから、また積極的に携わっていきたいと思います。

